

気軽に読むサイエンスの話題③

## デジャヴ！いやメジャヴ？

7月26日の読売新聞朝刊をはじめ多くの新聞やテレビニュースに『誤った記憶 人為的に作成』といった見出しの記事が掲載されました。マウスで人工的に誤った記憶を作り出すことができたのです。記憶メカニズムの解明は進んでいますが人為的に誤った記憶？を作成することに成功したのは世界初めてです。これはノーベル賞を受賞した利根川進博士らが発表したものですが、もともとそのチームは『デジャヴ』研究を行っていました。初めての場所なのに前にもきたことがあるような感覚、これが『デジャヴ；既視感』です。そういえば経験したことがあるという方もいるのでは。歳をとると起こりやすくなるともいわれていますが、映画などでもよい題材となっています。記憶は脳の中央にある海馬と呼ばれる大きく細長い部位で作動し、博士らは、その中の歯状回(しじょうかい)と呼ばれる部分がエピソード的な記憶に関係し類似している場所や状況を『告げて』いることを明らかにしたのです。この発見で人為的に記憶を作成したりデジャヴの謎に迫ることができるようです。

さて、利根川博士は1987年に日本で初めてノーベル生理学・医学賞を受賞しました。受賞理由は『抗体の多様性生成の遺伝学的原理の解明』という言葉だけでも難解です。細菌やウイルスから身体を守る防御機能、『免疫』の中で重要な働きをする抗体産生の仕組みを遺伝子レベルで明らかにしたのですが、今回の発見は脳化学では？…。そう、利根川博士はノーベル賞を受賞した後、脳科学者に転身しました。遺伝子の解析によって細胞の働きを明らかにする『分子細胞生物学』にとって、脳機能の解明は大きな目標です。博士の転身は自然科学探求の流れに沿ったものかも知れませんが、博士が流れをつくったのかもしれない。ちなみに一度体験しているのに初めてのような気がするの『メジャヴ；未視感』というそうです。単なる物忘れかも知れませんが…。

メジャヴとの関連は定かではありませんが、高齢化した我が国ではアルツハイマー型認知症が社会問題です。発症には神経原繊維変化を引き起こすリン酸化タウ蛋白や神経細胞毒性をもつアミロイドβ蛋白質の増加が関与していることが明らかにされています。本年6月より認知症発症のマーカーとして注目を浴びているこれらの物質を外注検査できるようになりました。詳しくは臨床検査部までお問い合わせ下さい。

文責 臨床検査部 根間敏郎  
武城英明